



北陸観光情報 第2弾

福井県編②

今回は福井県の伝統の産業を紹介します。時代が変わっても常に本物は求められます。福井には、規模は小さくても福井独自の技術がたくさんあります。旅の途中で、これらに触れる機会はきつとあるはず。ものづくりから見ると、福井の奥深さを感じていただけたら幸いです。

メガネフレーム

福井県では、世界的に高水準の技術で知られるメガネフレームが生産されています。江市は、国内生産額の90%を占め、イタリア、中国とともに世界三大生産地の一つとなっています。福井県のメガネフレーム工業は、明治38年（1905）、増永五左衛門が私財を投じて大阪より技術を導入したのが始まりです。老眼鏡や近眼鏡が社会生活の中での必需品になることを予見した、増永の先見の明でした。鯖江のメガネフレーム生産は、職人達が帳場というグループを作って腕を磨き、年季の明けた者が親方として独立し、その技術を伝えていくことで飛躍してきました。開業6年後の明治44年には、内国共産品博覧会に出品した「赤銅金ツギ眼鏡」が有功一等金賞を獲得し、東京、大阪と並ぶ、日本の三大眼鏡産地として知られるようになります。昭和20年前後の戦災や職人の疎開によって、生産基盤を失った東京、大阪の眼鏡産地は衰退し、戦前からの生産基盤を保ってきた鯖江のみが戦後の需要期に発展していきました。現在、メガネフレームは低価格の中国製品が主流ですが、金属アレルギーを起こしにくいチタン金属をフレームに使うなど高い技術が評価され、世界中で愛用されています。



越前和紙と若狭塗

福井県の伝統的工芸品は、越前焼、越前漆器、越前打刃物、若狭めのう細工、若狭パー、三国箆笥など、数多くあります。ここでは全国的に有名な越前和紙と若狭塗を紹介します。

越前和紙は主に越前市で生産され、手漉き和紙の全国生産額の約30%を占めています。その発祥は、継体天皇（507年～531年）が越前国におられた頃、おつきの女性の川上御前が、五箇の村里は谷間で田畑がないかわりに清水が豊富なので紙すきの技法を教

えた事に始まるとのこと。歴史上の文献に手漉き和紙が登場するのは、推古朝期の610年のことで、僧曇徴により伝えられたと日本書紀に書かれています。このことから、継体天皇の逸話は伝説だとも言われています。

越前和紙はコウゾを原料とし、釜で蒸してから皮をはぎ、水につけて足で揉みほぐします。それに糊を入れ木灰汁で煮たものを簾桁で漉き、乾かします。和紙の産地は美濃、土佐も知られています。中でも越前和紙は高い技術と経験により優れた製品を生み出してきました。和紙の種類も豊富で、特に奉書という公用紙においては、大正8年、第一次世界大戦後のパリ講和条約の調印に使用されたほどです。明治時代の初期に、政府が発行した紙幣に使われたこともあります。美術用紙としても日本画の横山大観、東山魁夷らに愛用されていました。

若狭塗は、慶長5年頃、漆工の松浦三十郎が中国・明から輸入された漆盆を模した事に始まり、若狭の美しい海底の様子を表現しようと独自の技術を磨いた結果、生まれたものといわれています。技法はひのきや朴の木で素地作り、下地塗り、上塗りと進行し、一般の漆器に見られる仕上げの加飾はありません。塗りの特徴は、素地に漆を塗り、乾かないうちに松葉、檜葉を塗り面に付着させます。隙間に青貝や卵の殻を使って模様を描き、乾燥させた後に松葉、檜葉を塗り面より除去します。青貝、卵の殻はそのままにして色漆を上塗り込み、乾いてから全面に金箔を押し貼ります。摺り漆をしてしつかり箔を押しした後、乾燥を待つ最後の仕上げ塗りである木地呂漆を塗り込みます。乾くと、全面が濃い飴色に覆われ、底の方に金箔のきらめきが透けて見えるようになります。重箱や盆、塗り箸など日常品に多く生産されています。塗り箸は全国の高級塗り箸生産の約80%を占めています。若狭塗が全国的に知られるようになったきっかけは、NHK連続テレビ小説ちりとてちんです。ヒロインの実家が若狭塗り箸の職人の家だったのをご記憶の方もありません。

今は夏休み真っただ中、福井県の若狭地方は大阪からも近く、きれいな海での海水浴は日帰りも可能です。この時期、夏祭りも各地で開催され、小浜市あげての夏祭り「マリリンピア2013」(7月31日、8月1日)や、おおい町の炎の祭典「スーパー大火勢」(8月3日)、星がテーマの「星のファイエスタ」(8月13日)などが開催されます。この夏の思い出に若狭に足を伸ばしてみたいかがでしょうか。

福井県大阪事務所

大阪市中央区瓦町2の2の14

06・6231・1023



若狭おおいのスーパー大火勢
高さ20m、重さ1tの巨大松明「スーパー大火勢」が倒れると同時に仕掛け花火が打ち上げられます



掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞